

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 129 号

平成 28 年 8 月 1 日発行

発行所 : 旭労災病院

〒488-8885

尾張旭市平字甲北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

<http://www.asahih.rofuku.go.jp/>

平成28年度全国労災病院外科共同研究について

外科部長 小川 敦司



北海道から九州まで全国にある労災病院32施設の外科で毎年共同研究を行っています。患者様の早期社会復帰を目標に腹腔鏡手術であったり、抗がん剤治療であったり様々な外科領域疾患についてテーマを決めて検討を行っています。

まずは昨年度の結果報告になりますが平成27年度研究は鼠径ヘルニア手術について行われました。当院ではメッシュ素材を用いての前方からの修復術を標準術式として行っております。各労災病院間術後成績と比較しても当院での再発率や術後合併症の発生率などは良好でした。また再発症例に対する修復術に関する検討も行いました。当院ではメッシュ素材を用いた前方からの修復を行っており術後成績は良好でした。

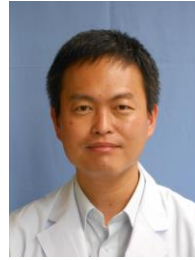
本年度の研究目標は全国の労災病院における手術部位感染（以下 SSI）の発生状況と対策の現状を把握し、多施設での調査結果を検討し、SSI の有効な対策を探ることとなりました。

外科診療の周術期の管理の中で、SSI は消化器外科領域での発生が多く、発症すると入院期間の延長や医療コストの増大をきたし、患者様の満足度を著しく損ないます。勤労者においても、早期の社会復帰を妨げる要因となります。当院でも術前処置、抗生物質、創部洗浄、手袋や手術器具の同一手術内の変更等様々な予防策を行っております。

今回、全国の労災病院における SSI の発生状況と対策の現状を把握するために、平成28年度の胃癌および大腸癌手術に関して調査を行い、この多施設での調査結果を検討し、SSI の有効な対策を探り、さらにこの対策を全国労災病院で実践して、Prospective な研究につなげれば、勤労者の早期退院・社会復帰に寄与できると考えております。この研究結果につきましては改めてまたご報告させていただきます、当院での SSI 発生低下への取り組みに反映させていく予定です。

スマートフォンの健康管理アプリについて

糖尿病内分泌内科部長 小川 浩平



近年スマートフォンが世界中で普及して社会を変えているのを日ごろから実感しております。欧州で頻発するテロのニュースでは、現場に居合わせた一般人がスマホで動画を撮影して SNS にアップしたものを、報道機関が世界に配信しています。

スマートフォンの性能が向上し、アプリ（ソフトウェア）もどんどん進化しています。中には生活習慣病の自己管理に有用なものもありますので、今回はそのお話しです。

カロリーママ（リンクドコミュニケーション社）という食事管理アプリがあります。管理栄養士のキャラクターが、タイムライン上でユーザーに「朝食食べました？」と次々に問いかけて、返信すると即座に栄養のアドバイスがもらえます。アドバイスのパターンは 200 万以上と豊富で、10 万人の栄養指導で得られたアルゴリズムをもとに自動で送られます。私自身も姉妹品の**キリンお酒と食事の健康サポーター**（画像）を利用していますが、いかにも栄養指導で言われそうなアドバイスに感心します。これはビール会社キリンの健康プロジェクトの一環で、酒類の入力が簡単になっています。

食事管理アプリでは面倒なのが食事内容の入力ですが、これも技術革新が進んでいます。**Food log: Calorie Counter 写真で手軽に食事記録&カロリー管理**（foo.log 社）はスマホカメラで料理を撮ると、画像解析により候補メニューを提示し、それをユーザーが選択するというものです。まだ発展途上のようにですがディープラーニング技術により精度向上が期待されています。

アメリカなどで先行配信されて大ブームとなり、7月22日に日本で配信された**ポケモン Go**（ナイテック社）が社会現象になっています。これは健康管理というより健康増進ゲームです。ポケモン Go のもとになったインGRES（ナイテック社）は位置情報を使って地域の名所を陣取りするゲームで、たくさん移動するほど所属チームの勝利に近づきます。私の肥満糖尿病患者でインGRESにはまって1か月に150km歩き、劇的に改善した方がいます。ポケモン Go もたくさん歩くゲームですので世界の健康増進に寄与していくでしょう。

スマートフォンとアプリが人々の生活スタイルを日々変えています。登録医の先生方も健康管理アプリを試されてはいかがでしょうか。

